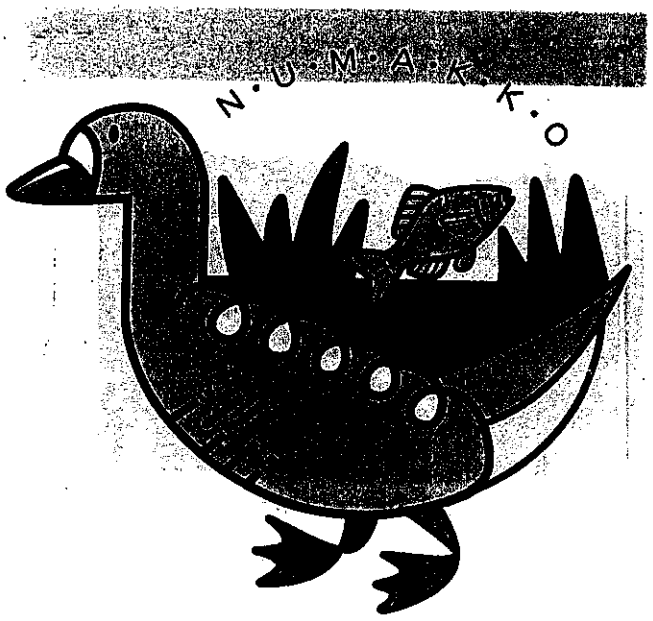
自然と折り合いをつけたまちづくりにむけて

8・8 蕪栗ぬまっこくらぶ（ラムサール条約登録地）の環境保全活動から学ぶ

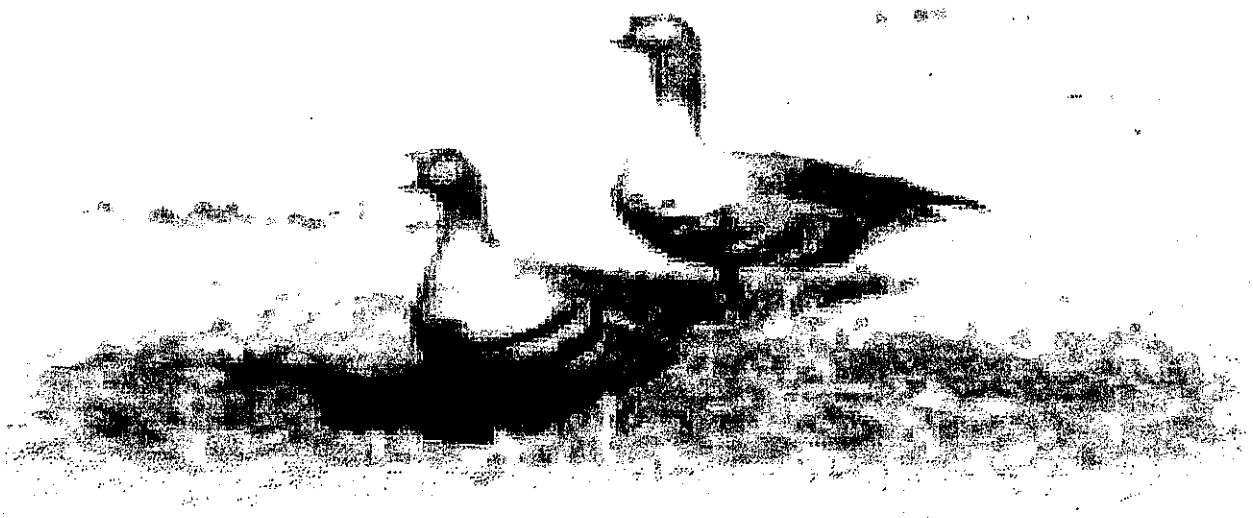
「杜の都仙台」かっては屋敷林、寺社林、で覆われた街並み、青葉山の眼下を滔々と流れている広瀬川、そして市中にはせせらぎの音をたてながら四谷用水（防火、生活用水、癒しの空間）が流れ込み自然と折り合いをつけた都市空間であっただろうと想われます。
しかし今日、高層ビルが建ち並び丘陵地帯は乱開発され、利便性、効率性、そして物質的豊かさだけを追い求めた都市づくりがおこなわれ「地球温暖化防止」の掛け声とは裏腹に生態系を破壊し続けているのが現状です。
昨今では地下鉄東西線建設、東北大農学部の移転によって都市の中にあって豊かな生態系を保持していた青葉山が壊滅的な破壊をうけることは必至です。
オオタカ営巣地が工事に掛かるところから人工営巣地への移動という措置について、ある市議会議員は「オオタカと人間のどちらが大事か」という発言があったと聞いています。
人工営巣地への移動という措置にも大いに問題があるが、市議会議員の発言はこれまでの人間中心主義自然は人間によって支配される対象の開発重視の考えといえるでしょう。

私たちは次のように考えます。　人間は生態系の一部であり、自然に生かされ生きている、「自然と折り合いをつける」この考えは江戸時代までには、日本の伝統的自然観であった。
しかし、明治維新以降、富国強兵、殖産興業を軸にした欧化政策、さらに戦後、物質的豊かさを追い求めた高度経済成長により、日本の伝統的自然観は忘れ去られてきたといえるでしょう。
「地球生命体」の危機が叫ばれている今日、日本の伝統的自然観を復権させることはとても重要なことだと考えます。

自然と折り合いをつけた街づくりにむけ大崎市において、ラムサール条約に登録され（蕪栗、化女沼）環境保全活動を進めている「蕪栗ぬまっこくらぶ」の事務局長戸島　潤　氏をお招きし、保全活動をどう進めているのか、そして、生産農家との関係、行政との関係をどう作りあげているのか講演を受け討論を通し、深めたいと思います。



<ウラにつづく>



日　時　：　平成21年8月8日（土）１２：３０～
場　所　：　市民サポートセンター（セミナーホール及び市民活動シアター）
参加費　：　５００円　＋　カンパ
連絡先　：　自然に折り合いをつけた街づくり実行委員会
０２２－２７３－９２２[redacted]　須江

スケジュール　１２：３０～　講演　戸島　潤　氏（蕪栗ぬまっこくらぶ事務局長）
１４：００～　討論
１５：００～　演奏会　akimaru（青葉通ケヤキ音楽祭などで活躍）
会場の都合にて中止の場合もあります。その時は御了解のほどよろしくお願いいたします。

（お知らせ）

「希望の島・東ティモール　有機農業とわたしたちの未来 in 仙台」
日時　：　平成21年１０月７日（水）　１６時開場予定
会場　：　エル・パーク仙台（ギャラリーホール）